

そこが聞きたい!!

一般質問

一般質問のようすは、インターネットで配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます。(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です)



雨水を浸透または貯留することで、やさしい水循環を!!

内藤 光雄 (新政みらい)



録画配信の
2次元コード

◆浸透マスは地下水を適切に保ち、貯留タンクは雨水の有効活用につながる

- ①設置目標に対する達成状況は。
 - ②雨水貯留・浸透施設の設置拡大が進まない要因や、設置拡大に向けた課題の認識は。
- 都市建設部長** ①浸透マスは651基の目標に対して614基設置(94.3%)となっている。貯留タンクは428基の目標に対して323基設置(75.5%)となっている。
- ②住宅の事情により設置場所の確保が難しいことなどの理由から、設置拡大が進まないと認識している。

その他のテーマ
▶ 第8期狭山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗と第9期計画の策定について

◆浸透マス・貯留タンクの設置拡大に向けて!!
設置拡大に向けた具体的な取り組み及び検討状況は。

都市建設部長 事業者の来庁時や防災講座及び防災訓練の機会を捉え、関係課と連携しPRを行うとともに、ホームページや広報紙に補助内容を掲載し周知を図っている。今後は設置拡大に向け、浸透マスや貯留タンクの設置効果が見えるように展示を工夫する。



貯留タンクで雨水の有効活用を!

子どもたちが楽しく水遊びできる魅力ある施設整備を要望

金子 広和 (創造)



録画配信の
2次元コード

◆入間川にこにこテラスをリニューアルし、さらなる進化を期待

- ①志木市にある『いろは親水公園』の大型複合遊具は、入間川にこにこテラスの大型複合遊具にも似ている。通常時には大型複合遊具として稼働し、夏にはウォーターパークとして子どもたちが直接水と触れあひ楽しめる空間として遊べるように、リニューアルされたようだが、市の評価は。
- ②志木市のウォーターパークは、暑い日が続く夏場などに、大型複合遊具周辺を直接水に触れられる水深10cm～15cm程度の水遊び場となるよう整備している。また、落下時の衝撃吸収のために、場内は砂ではなく足に優しいゴムチップ舗装をしている。

志木市のように、これまで以上の賑わいの創出と、多様な利用者ニーズに対応することを目的として、将来的に、入間川にこにこテラスのリニューアルを考えてみてはどうか。

環境経済部長 ①夏場には多くの利用者が訪れ、人気のある施設であると伺っている。

②現在のところ、新たな遊具の設置や既存遊具の改修などの予定はないが、将来的に入間川にこにこテラスのリニューアルなどの際には、志木市の事例も参考に検討したいと考えている。



志木市のウォーターパーク

空家対策と脱炭素社会の実現に向けて

建設環境委員会

建設環境委員会では、三重県玉城町、京都府京都市、静岡県静岡市を視察しました。ここで、その一部を報告します。

実施日 11月1日(水)～2日(木)
視察先

- 三重県玉城町 ▶ 空家対策事業(郵便局員による空き家調査業務)
- 京都府京都市 ▶ 中小企業脱炭素経営支援事業
- 静岡県静岡市 ▶ 脱炭素先行地域における脱炭素の取組

参加者 福田 正 酒井 英男
衣川千代子 加賀谷 勉
土方 隆司 町田 昌弘



玉城町にて説明を受けるようす

▼委員会行政視察の詳しい内容は狭山市議会公式ホームページへ



●三重県玉城町
空家対策事業(郵便局員による空き家調査業務)
空き家対策が課題であったことから、町が郵便局に空き家調査を委託し、町が示した調査項目をもとに郵便局員がタブレット端末を用いて、現状を確認し、システム入力、外観撮影により、同町に報告するという事業でした。

全国初の事業であったため、多くのメディアでも取り上げられたことによるアナウンス効果は絶大であり、空き家バンクの登録や局員の信頼度が増加し、郵便局の信頼度によるスムーズな調査が実施できたことなど、空き家対策解決に向けて成果が実感できたこととありました。

●京都府京都市
中小企業脱炭素経営支援事業
エネルギー価格の高騰や再生電力の主電源化など、エネルギーを取り巻く環境が激変しており、脱炭素化の動きも加速していることから、中小企業者などに対して、脱炭素化をビジネスに結び付けるための経営支援事業の取り組みについて説明を受けました。

狭山市も今年度から類似した事業を行っていることから、お互いにアイデアを出し合い活発な質疑応答になりました。また、事業が開始されて間もないことから、今後両市で情報共有することに努めます。

●静岡県静岡市
脱炭素先行地域における脱炭素の取組
環境省は、2030年度までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする取り組みを進める地域を「脱炭素先行地域」として選定し、優先的に予算を配分する取り組みを行っています。静岡市は、第1回の先行地域に選定されていることから、その事業内容を確認してきました。

静岡市は、民間企業と連携を図りながら、市内の3エリアを脱炭素先行地域として整備していくこととしています。各エリアでは、民間企業が主体となり、太陽光発電などの再生可能エネルギー設備に加え、大型蓄電池やエネルギーマネジメントシステムなどを導入し、地域マイクログリッドの構築を図りながら電力消費に伴うCO₂排出実質ゼロに向けた取り組みを進めていくという事業でした。

壮大な事業であり、狭山市との違いはあるものの、今後、カーボンニュートラルを推進するための参考となる取り組みでした。



静岡市にて説明を受けるようす